

# Highlights

## 学会印象記

### 第52回 日本アルコール・アディクション医学会学術総会

岡村 智教 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室(教授)

本年度(2017年9月8日, 9日)の学術総会は, 第39回日本アルコール関連問題学会との共催として開催させていただきました。日本アルコール・アディクション医学会は, 依存症関連の学会としては最も歴史が長い日本アルコール・薬物医学会と日本依存神経精神医学会が統合して発足しましたが, 統合後, 精神領域, 薬物依存症領域の会員の占める割合が多くなりました。そのため, これらの研究領域の学会発表などはたいへん充実してきた反面, 内科などの臓器障害関係や法医学・公衆衛生領域の参加者の減少も懸念されていました。そこで本年度の学術総会のテーマを「ポピュレーションリスクとしてのアルコール健康障害と依存症」とし, アルコールや喫煙, その他の現代社会特有のさまざまな依存症が与える健康への影響を日本人集団全体に与える影響という視点で俯瞰し, それぞれの対策を総合的, 包括的に考えようという意図の下, 全体のプログラムを編成しました。

一例をあげると, シンポジウム1ではアルコール代謝と

ゲノム多型という法医学のテーマにドーピングの問題も絡めた議論を行いました。またシンポジウム8では喫煙, 飲酒だけでなく, 肥満や塩分過剰摂取も広義のアディクションと捉え, 行動科学の視点から公衆衛生的な課題解決を試みる方策が検討されました。その他, 脳内報酬系の分子機構, 物質使用障害のハームリダクション, アルコール性肝障害研究の最前線, 依存症回復支援施設での課題, 依存症対策におけるメディカルスタッフの役割など幅広いテーマのシンポジウムを設定し, それぞれ活発な質疑応答が行われました。また一般演題も100題を超える演題が集まり, 特に疫学・公衆衛生関係の演題が多く, ポスター会場も熱気に包まれていました。

2日間の会期中に1,000人を超える方に参加していただき何とか無事に学術総会を終わらせることができました。この場を借りて組織委員, プログラム委員の先生方, 支えていただいた関係諸機関の方に篤く御礼申し上げます。



写真1 会場入口



写真2 ポスターセッションの様子